

## 入船型と出船型

校長 熊野 真司

平成29年が始まりました。貫井中の生徒が大きく羽ばたけるような年になりますよう、本年もどうかよろしく願いいたします。

履き物を脱いだ時の揃え方には「入船」と「出船」があります。入船はつま先を内側に向け、出船は外に向けます。揃えない人もいるでしょうが、作法として昔から伝わっています。現在一般的には、訪問先の玄関で履き物を脱ぐ時、一旦入船で脱ぎ玄関先が上がってから履き物を180°回転させて出船にするのがマナーとされています。これは、茶の湯において茶室のにじり口の出入りから来ている説や、天災や有事の時に備えて直ぐはけるようにするためなどの説があります。しかし、お年寄りや体の不自由な方は、入船のままの方が楽だし、履く時もその方が安定して良いそうです。また、訪問先にあまり滞在したくない意で失礼だという人もいます。そうなると、何が正しいのかわかりません。どちらの向きでも、揃えることだけが正しいのでもありません。私の通っているスポーツジムのトイレにもスリッパがあります。よくバラバラになっているので、気がつく度に入船に揃えています。もし揃っていても出船になっていたら、次に使う人はどうでしょうか。きっと使いづらく感じることでしょう。人それぞれが、目的や場、人に応じて良い方向に揃えていくのが正しいのかもかもしれません。もちろん作法が決まっていればそれに則ってということです。2月には、2年生のスキー移動教室があります。今年はベルデ軽井沢に宿泊し、東部湯の丸スキー場で実習を行う予定です。履いてきた靴は下駄箱に、スキー靴はスキー庫の棚に収めるので、特に気を遣うことはないでしょう。宿舎内でのスリッパ等はどうでしょうか。貫井中の生徒がこの2年間で何を身に付けてきたかが垣間見られるのではないかと期待しています。「入船」や「出船」の心は履き物に限ったことではありません。どうすれば一番良い結果に結びつくのか、どうすれば人が喜ぶのかなど、常に考え、最良と思われる行動を選択していくことができるかということです。それは社会性であり人間性を高めていく行動だと思っています。

酉年の酉という字は、酒壺を表し、果実が成熟した状態だそうです。貫井中の生徒の社会性や人間性を十分に醸成し、大空に羽ばたかせたいと強く思っています。

### 1 / 10 (火) オリンピック・パラリンピック教育全校集会

### 1 / 14 (土) オリンピック・パラリンピック教育実践報告会 より

「不動心」始業式の日と14日に行われたオリンピック・パラリンピック教育報告会に本校の卒業生でオリンピックのシャーフセイン・チャー氏が来校し、生徒と保護者・地域の方に講話をしてくださいました。その時、本校のために残した色紙にしたためられている言葉です。これは、色紙に座右の銘があれば書いてくださいとお願いしたところ、書いてくださったものです。座右の銘とは、常に自分の心に留め置き、戒めや激励になる言葉で、信念や行動理念を指し示す場合



が多いものです。彼の場合、「不動心」は人から授かった言葉だと言うことですが、自分自身の生き方と重なり、座右の銘としているとのことでした。

自分の心の中に指針をもつことは大切です。いただいた「不動心」を学校の宝として校長室に飾っておきたいと思っております。ちなみに、私の座右の銘は、「力必達」(努むれば必ず達す)です。



※世界友達プロジェクトはお休みします。